

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

デイリー・ジーザス・ニュース #365

天国におけるイエスの永遠の奉仕

復活したイエスの永遠の未来にわたる言葉と働き

イエスの最後の招待、命令、そして再臨の約束

黙示録16.15; 19.11-16; 22.1-7, 12-13, 16-17,

=====

16.15 *「見よ、わたしは盗人のように来る。裸で歩き回ったり、恥ずかしい姿をさらしたりしないように、目を覚まして身を守り、衣服を整えている人は、本当に幸いな人である。」*

22.1 天使は私に、永遠の命の水の川を見せた。それは水晶のように輝き、澄み切っていて、神と小羊の御座から流れ出て、2 都の大通りの真ん中をまっすぐに流れていた。川の両側には永遠の命の木が生えていて、十二期の実を咲かせ、毎月実を結んでいた。その木の葉は諸国の民の癒しのために用いられていた。

3 もはや、いかなる呪いもなくなります。神と小羊の御座は都の中にあり、その僕たちは主に仕え、礼拝します。4 彼らは御顔を仰ぎ見、御名が彼らの額に記されます。5 夜はもうありません。彼らはもはやランプの光も太陽の光も必要としません。主なる神が彼らの光として輝くからです。そして彼らは永遠に支配します。

6 御使いは私に言いました。*「これらの言葉は真実であり、信頼できるものです。預言者の霊を導く神、主は、御使いを遣わして、必ずすぐに起こるであろうことを、ご自分の僕たちに示すのです。」*

イエスはこう言われました。*「7見よ、わたしはすぐに来る。この巻物に記された預言の言葉を忠実に守る人は幸いである。」*

12 *「見よ、わたしはすぐに来る。わたしの報いはわたしと共にあり、わたしは各人の行いに応じて報いを与える。13 わたし自身がアルファでありオメガである。初めてであり終わりである。初めてであり終わりである。」*

16 *「わたし、イエスは、わたしの天使を遣わして、諸教会にこの証しを与えた。わたしはダビデの根、子孫、輝く明けの明星である。」*

17 *「御霊と花嫁がこう言っています。『来るように命じます。』*

そして、わたしの言うことを聞く者には、『あなたに命じる、来なさい』と命じる。」

」渴いている者は来なさいと命じる。
わたしは、望む者はだれでも永遠の命の水を無償で受けるように命じます。」

20 これらのことを証しするかたは、」しかり、わたしはすぐに来る」と言われます。

アーメン！主イエスよ、来てください！

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	トルコ沖のギリシャのパトモス島
タイムライン	イエスの昇天から約60年後
イエスの生涯の文脈	第9段階：イエスの復活と永遠の宣教
	イエスの永遠の奉仕
	復活したイエスの永遠の未来にわたる言葉と働き
タイトル：	イエスの最後の招待、命令、そして再臨の約束

ついに「デイリー・ジーザス・ニュース」の最終回を迎えました。この研究シリーズの著者として、イエス・キリストの生涯と教えを学ぶ一年間の旅路を辛抱強く歩んでくださった皆様に心より感謝申し上げます。この一年を、皆様がイエスへの愛を深め、弟子として少しでもイエスに似た者となられることをお祈りいたします。また、イエスの生涯の時系列と流れがより明確になり、皆様にとって大切なものとなることを願っております。

の天における永遠の奉仕が地上においてもさらに深く理解され、イエスの最後の命令と私たちへの約束が与えられます。この箇所は聖書そのもののクライマックスとも言える結末です。

の永遠の奉仕の4つの側面について考えてみましょう。第一に、イエスはすべての民に、三位一体の交わりにおける深い親密さを与えてくださいます。イエスは私たちが「御顔を仰ぎ見る」こと

ができるようにしてくださいます。これはヨハネがヨハネ1章1節 (DJN #001) で、イエスが前世において父なる神と交わっていたことを描写するために用いた言葉です。私たちと三位一体の交わりは、父、子、聖霊の永遠の交わりと同じくらい完全なものとなるでしょう。

イエスの物語は今、三位一体の神が創造以前から享受していた愛と交わりを、見事に拡大したことで、一巡しました。父なる神は、御子の像に一致する息子と娘からなる広大な家族を持つことになります。これらの贖われた民は、イエスの愛の花嫁であり、聖霊の永遠の神殿でもあります。このように、教会は三位一体の各位格との関係において、特別な永遠の役割を果たします。

次に、イエスは祭司としての私たちの礼拝に力を与え続けてくださいます。イエスの御名 (イエスのアイデンティティ) が私たちに記されます。私たちは、惜しみなく注がれたイエスの豊かさの豊かさによって永遠に満たされます。こうして私たちは、イエスの復活の体に刻まれた傷跡のように、私たちの中に生き、目に見える、イエスの救いの御業の栄光のためにイエスを礼拝することができるようになります。教会は小羊の救いの御業を永遠に宣べ伝えます。なぜなら、私たちの存在と行いのすべては、私たちのためにイエスがなされた御業の産物だからです。

イエスは栄光を放ち、それが私たちに反射される時、光となります。この光は現在の太陽の光を凌駕し、太陽や星のような被造物が投げかける光はもはや必要ありません。イエスの光は単なる物理的なものではなく、主に霊的なものです。三位一体とそのすべての被造物に関する啓示の光は、永遠に私たちを教え続け、私たちの理解を絶えず豊かにしますが、私たちは三位一体の無限の全知の限界に達することは決してありません。言い換えれば、イエスは私たちを教え続け、私たちは永遠に弟子としてイエスについて学び続けるのです。

最後に、イエスは私たち一人一人に、ご自身の被造物を支配する力を与え、備えさせてくださいます。私たちは、この地上で示した忠実さに応じて、主への奉仕を通して私たちの王を賛美する、喜びに満ちた責任と機会に恵まれるでしょう。

ですから、愛に満ちた交わり、礼拝、学び、そして奉仕こそが、永遠に主と共に生きる私たちの人生を特徴づけるものとなるのです。なぜなら、十字架にかけられた価値ある子羊、イエスが、これらの方法で私たち一人ひとりに力を与えてくださるからです。地上における天国での永遠の命は、決して退屈なものではありません！それは、主の栄光に満ちた愛をますます深く体験していくための、絶え間ない成長の連続となるのです。

さて、イエスが私たちに残された最後の戒めと約束について考えてみましょう。これらは私たちが知り、従うべき非常に重要なものです。最後の言葉は重要な言葉です。

イエスは、このメッセージを教会に送ったのはご自身であることを私たちに思い起こさせてくださいました (22:16)。これは、すべての教会と全時代の信者を意味します。なぜなら、イエスはこう約束されたからです。 **「この巻物に記された預言の言葉を忠実に守る人は幸いである。」** (22:7) イエスは、私たちが聖書に記された、天から私たちへ与えられた最後の啓示を真剣に受け止め、それに従うことによって祝福を受けることを期待しておられるのです。

イエスはまた、地上での宣教活動中に教えられた中心テーマである、ご自身の最後の再臨についてもう一度繰り返して語られました。

「備えよ！」これは、ユダヤとペレアでの宣教活動の最後の数ヶ月、そしてオリーブ山での説教において、ご自身の最後の再臨について語られた際にイエスが強調した点です。主は、備え」。を怠らない人々に祝福を付け加えられました見よ、わたしは盗人のように来る。裸で、恥ずべき姿で歩き回らないように、常に用心深く身を守り、衣服を整えている人は、真に幸いである。」 (16.15)

では、主の来臨に備えるために、私たちはどのように備えを保てばよいのでしょうか。イエスの最後の戒めが道を示しています。福音伝道と世界宣教に忠実であり続けることが、主の来臨に備え、常に警戒を怠らないための道です。主が私たちに与えてくださった最後の戒めに耳を傾けましょう。

イエスはこう始められました。 **「御霊と花嫁はこう言っています。」あなたたちに命じる。来なさい！」** 聖霊は、世界中の失われたすべての人々に、信仰によってイエスのもとに来るよというイエスの命令を、目に見えない形で絶えず伝えています。世界における普遍教会の存在は、福音の真理の生きた証拠です。私たちは、まさにその存在によって、救いを求めてイエスのもとに来るよという、すべての未信者へのイエス。の命令に呼応しているのです

それからイエスはこう付け加えられました。 **「そして、わたしの言うことを聞く者に命じる。」あなたに命じる。来なさい。」** もし私たちに、聖霊がイエスの言葉を語るのを聞く耳があるなら、主は私たちに、できる限りすべての未信者のところへ行き、イエスの「来なさい」という命令 / 招きを伝えるように命じておられます。最初の二人の弟子がイエスを信じたのは、イエスがこの命令を彼らに与え、彼らがそれに従ったからです (ヨハネ1:35-42; DJN #033)。その後、この命令は他の人々に伝えられ、彼らもイエスを信じるようになりました (ピリポからナタナエルへ、サマリアの女からスカルの人々へ)。イエスの「来なさい」という命令を伝えることこそが、伝道の真髄です。

最後にイエスはこう言いました。 **「渇いている者は来なさい。望む者は皆、永遠の命の水を無償で受けなさい。」** イエスは、世界中のすべての人に救いを求めて御自分のもとに来るよに命じておられます。私たち信者は、聖霊が、そして教会の存在がそうしているように、ただイエス

の命令を伝えるだけです。私たちはイエスの「来なさい」という命令に、私たち自身の忠実な声を加えなければなりません。

「**そうです、わたしはすぐに来ます**」という約束で言葉を締めくくられました。イエスが西暦95年頃にこの約束をされてから1900年以上が経ちました。これは、イエスが約束を守っていないことを意味するのでしょうか？もちろん違います。「すぐに」というのは相対的な言葉です。永遠に比べれば、2000年、2万年、あるいは200万年など取るに足らないものです。私たち個人にとって、そしてこの時代の教会にとって、この戒めに従うこの人生における機会は、あまりにもすぐに」過ぎ去ってしまいます。従うべき時は今です。これがイエスの最後の言葉でした。

応用：

私たちは、今この地上で行っているように、天国でも永遠に交わり、礼拝し、学び、仕えることを見てきました。しかし、この世でできて天国では決してできないことが一つあります。それは、イエスの来「なさい」という命令 / 招きをすべての人に伝えるという命令に従うために犠牲を払うことです。天国ではもはや犠牲を払うことはできません。そして、伝道の働きは永久に終わります。**すべての国の人々を弟子とする**」こと、これこそが、この時代にイエスが私たちに与えてくださった働きであり、この時代にしかできない働きなのです。

これが、私たちがデイリー・ジーザス・ニュースを発行する明確な理由です。私たちは単にイエスに関する情報を集めたいだけではありません。イエスの戒め、特にすべての人々に信仰によってイエスのもとに来るようという最後の戒めを知り、従いたいのです。そのためには、友人や仲間の信者にデイリー・ジーザス・ニュースを読むように勧めてください。

下さった最後の命令に対するあなたの決意をどのように新たにしますか。いつ始めますか。

来年、これはあなたの人生にどのような目に見える変化をもたらすでしょうか？

来年、あなたはどのようにしてイエスの生涯と教えを学び続けますか？

誰にDAILY JESUS NEWSの購読を勧めることが出来ますか？